事例No.	1818
公表年度	R4
団体の属性	指定都市
団体名	静岡県浜松市

事例区分	公営企業

タグ	・下水道事業 ・新たな政策手法の確立・活用 ・歳入確保

事例種類	PPP/PFI

事例内容・タイトル

浜松市公共下水道終末処理場（西遠処理区）運営事業

出典

公営企業の持続可能な経営の確保に向けた先進・優良事例集

【静岡県浜松市】
浜松市公共下水道終末処理場（西遠処理区）運営事業

PPP/PFI　下水道事業

静岡県浜松市上下水道部上下水道総務課

● 取組の概要

市内最大の下水道処理施設である西遠浄化センター等の効率的な運営を実現するため、公共施設等運営権（コンセッション）方式を導入した。

◆総事業費　改築にかかる業務の費用総額 約251億円

◆背景

- 12市町村合併に伴い、静岡県から浜松市へ西遠浄化センター等（流域下水道）が事業移管されることとなった。
- 市では行財政改革に取り組んでいたことから、増員を抑制し経費削減効果を期待できる公共施設等運営方式を導入した。

◆具体的内容

- 民間の自由度を高め創意工夫を発揮しやすくするため、対象施設（西遠浄化センター及び2ポンプ場）の経営・改築・維持管理を一体的に委ねることとした（具体的な事例は取組のポイント参照）。
- 市は最終責任者として、契約や要求水準が遵守されていることをモニタリングを通じて確認する。

◆効果

- 内製化（業者へ委託していた業務を自ら行うこと）など運営権者の技術力が活かされ、市が運営する場合と比較し、VFM（事業費縮減効果）14.4％の発現に向け順調な運営が行われている。
- 市は、運営権対価として25億円を運営権者から受け取る。
- 地元雇用や市内業者への発注、市内での国際下水道セミナーの開催など、地域活性化につながる取組が行われている。

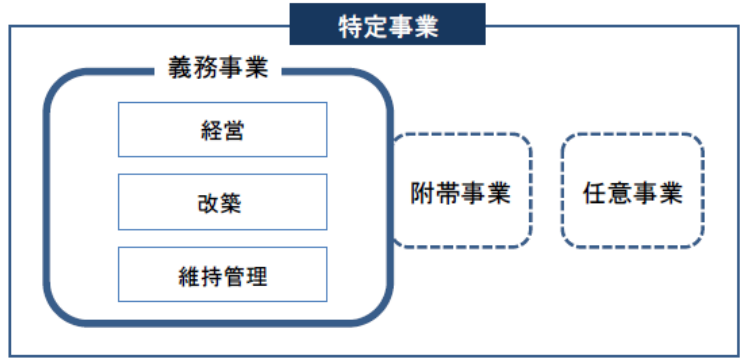
● 取組のポイント

- 中央監視のモニター統合を行い、汚泥処理と水処理の監視を一体化し、夜勤者を削減した。
- 民間業者が散気装置と送風機の更新、焼却炉の閉塞対策を行うことで、省エネ化や施設の抱えていた課題解決に繋がっている。
- 運営権者、市及び専門的知見を持つ第三者機関（日本下水道事業団）によるモニタリング体制を構築している。

● 公営企業情報

- 行政区域内人口　795,771人（令和4年1月1日時点）
- 行政区域内面積　1558.06km^2（令和4年1月1日時点）
- 処理区域内人口　646,071人（令和3年度決算）

事業範囲のイメージ



● 取組のスケジュール

- 平成25年度　導入可能性調査を実施
- 平成28年2月　実施方針の公表
  特定事業の選定・公表
- 平成29年10月　実施契約締結
- 平成30年4月　事業開始（～令和20年3月まで）

● 今後の展望

- 運営権者による効率的な事業運営を実現するためモニタリングを継続する。